

## 長崎街道「曲里の松並木」を守る

江戸時代の九州の街道網は、長崎街道、薩摩街道、唐津街道、日向街道、日田街道、豊後街道、中津街道、豊前道、出水筋、大口筋の10街道が主要街道であった。長崎街道は、九州で唯一の脇街道、豊前小倉城下常磐橋から肥前長崎まで57里（約228キロ）、25宿、幕府が量も重視した脇街道である。

小倉藩は小笠原氏15万石の城下町、北九州市の中心地である。寛永9年（1632）細川氏に代わり小笠原氏が小倉城に入城。「豊前国は九州衝要の地たるにより、鎮護せしむるの条、何事によらず相かわる儀これあらば早速言上いたすべし」と。九州は有力外様大名の領国が多い。外様大名の動向を監視せよというのである。九州探題として的小笠原氏は10代、明治までつづいてきた。なお小笠原家は鎌倉時代の名家、「小笠原流」の礼法でしられている。

小倉城下の紫川に常磐橋がかかっていた。ここが参勤交代で九州各藩の大名が江戸、大阪への渡航口。長崎奉行や日田郡代、オランダ使節、常磐橋を起点とする長崎街道は賑わったことだろう。街道すじには黒崎、木屋瀬（八幡西区）、飯塚（飯塚市）、内野（筑穂町）、山家、原田（筑紫野市）の筑前六宿は宿場町として栄えた。長崎街道はわが国唯一の海外に開かれた街道であった。街道には松並木がつづき、一里塚が築かれていただろうが、もう昔日の面影は「曲里（まがり）の松並木」にしかみることはできない。

### 旧街道緑地「曲里の松並木」

長崎街道の松並木、江戸時代の街道を偲ぼせる松並木を復活させようと、北九州市は、昭和47年6月、八幡西区幸神、岸の浦、東曲里町にわたる「旧街道緑地」を都市計画決定。昭和49年には基本整備を終えていたが、昭和63年度から平成元年にかけ「北九州ルネッサンス構想」に掲げる「文化の薫るまちづくりの推進」の一環として再整備を行った。事業費は約1億3千万円。見事な松並木が復活された。

旧街道緑地「曲里の松並木」は約1キロ（300m未整備）には約600本の松林が緑陰をつくる。ひとときわそびえるのが樹齢200～300年といわれる老松4本である。街道の両側に小高い土堤が築かれそこに植栽されている松林、樹齢はさまざまだが江戸時代の面影をよく伝えている街道である。松並木の両側は住宅群、三菱化成の社宅の跡地には



長崎街道「曲里の松並木」

プリンスホテルが建つ。急激な都市化の中でよくこれだけの松並木を残したものだと思う。旧街道緑地は区画整理事業でつくられたものだ。

昭和32年ごろまでは57本もあった老松だが、もう4本になってしまった。マツノザイセンチュウによる松枯れ被害である。昭和40年代までの松並木は雑草でうまっていたという。そこは子供たちの遊び場であり、牛が草をはむ、そんなのどかな光景であったという。当時の面影をもう偲ぶよすがはないが、江戸時代から枯れたら植えつけてきた松並木である。幕府にかわり北九州市の手厚い保護によって市民の憩いの場、散策の場としてよみがえった。

江戸時代そのままに道幅約4m、両側にそれぞれ約10mの土堤が築かれ、20年生前後の松林がつづく。黒崎側の人口は城塞を思わせる大石で築かれ、鉄平石の排水溝と敷石、松並木の林床はきれいに刈り込まれていた。根締めにはササ類をはじ



よみがえった曲里の松並木

めハギ、ヘデラ、タマリユウ等を植栽、休憩舎やベンチ、旧街道緑地は市民の緑道、公園として親しまれていた。これらの松林は移植しながらの整備であったという。

江戸末期に「泰西本草名疏」全四巻三冊を出版した伊藤圭介（1803～1901）は、わが国初の理学博士、東京大学教授として著名である。彼は青年期、長崎に遊学、シーボルトに学んだ。長崎を去るにあたってシーボルトから餞別としてチェングリーの「日本植物誌」（フローラヤポニカ）が贈られた。帰郷後（名古屋）、「日本植物誌」を研究し、これを抄訳したのが「泰西本草名疏」である。文政12年、27歳の時であった。圭介が長崎遊学に旅立ったのは文政10年8月12日、その紀行文に長崎街道の記述がある。「尾倉村ニ小憩、餐杯、豊前領ノ内ヨリ畑の間或山辺杯ニロウノキ（ハゼ）アリ、小倉ニモ市中ニ乾テアリ、黒崎迄田間ノ道也、道モヨク並木松也、小キ山ノ側を通ル、右手ハ向ニ皆山也、左手山間樹間ニ入海ミュ、小倉飴名物也、黒崎ニテモアリ小倉飴ト云」と。長崎街道は「道モヨク、並木松也」というのである。そして松並木から海が見えていたというのである。

### 松くい虫対策

北九州市の都市公園は1,491ヵ所、その面積は



樹幹注入剤グリーンガードで守る

917ha, 公園関係予算は約100億円, そのうち松くい虫対策費は約1千万円である。これらの公園を管理しているのが昭和53年に設立された(財)北九州市都市整備公社である。北九州市には松の名所が多い。松の多い主な公園は, 勝山公園 324本, 足立公園743本, 文化記念公園1224本, 明治学園前177本, 旧街道緑地595本, 夜宮公園346本, 十三塚霊園125本等である。これらの松林へは原則として, ①周囲に人家のない場所に限定して地上散布(スミバイン)を実施する。②壮齢, 老齢の松林, 独特の風格をつくりあげている松, 胸高直径30cm以上の松を対象に, また人畜への薬害, 環境汚染が懸念されるところなどには樹幹注入剤, グリンガードで対応している。グリンガードの利用に当たっては安全性(普通物), 効果性, 経済性(2年間有効)があることなどを考慮してのことである。

旧街道緑地の松並木には, 胸高直径30cm以上の松が167本ある。これらの松林が長崎街道の主景をなしているものだ。ちなみに30~40cmの松は



樹木医が樹勢回復をはかった老松

130本, 40~50cm 27本, 50~60cm 6本, 65~70cm 1本, 75~80cm 1本, 90~95cm 2本である。旧街道緑地は人家でうまる緑道である。樹幹注入剤, グリンガードで守りぬきたいという。平成4年に老松3本を施工, 平成5年から本格的な樹幹注入剤の施工を実施している。長崎街道, 江戸の面影を残す唯一の「曲里の松並木」北九州市の指定史跡, 松くい虫の被害からぜひ守りぬいてほしいものだ。

### 老松を守る樹木医

平成6年8月, 岡野昌明樹木医が老松4本を樹勢診断, そううちの1本を治療した。岡野氏が30年前, 松並木の近くに下宿していた頃は街道幅も狭くて急峻だったという。北九州市街を走ってみると家々は山側に建ち, 平地は工場地帯, 鉄の八幡といわれたところだ。海岸線は埋立てられて北



土壌は建設残土で埋立てられていた

九州工業地帯へと変貌している。伊藤圭介が見たであろう海も、もうかつてのように長崎街道、曲里の松並木からは見ることはできない。

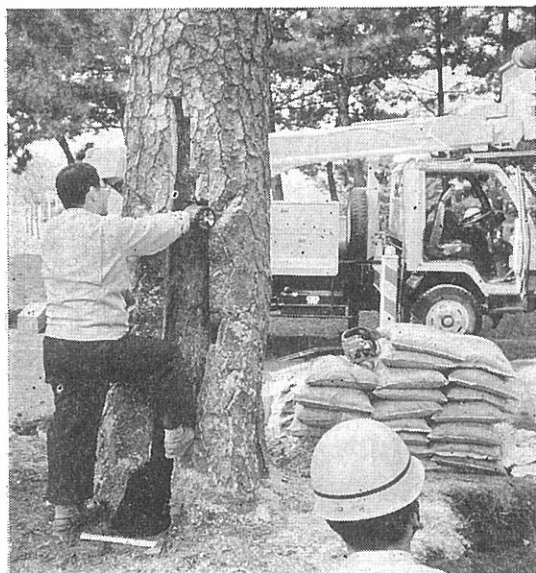
岡野樹木医の診断によれば、推定樹齢200年をこえる老松4本のうち3本は樹勢良好であった。しかし中央部の老松は異常な衰退を示していた。幹の3分の2以下の枝は枯死し、幹の腐朽が進み、土壌が悪く、根の発達が少ないなどの原因で衰退していると診断された。この老松は推定樹齢200年、樹高18m、胸高回り2.8m（直径90cm）、枝張り南西5m、北4m、枝下高8mである。周囲は20年生の松林、ひときわぬきんでた老松である。樹勢回復をはかるべく幹の腐朽部（褐色腐朽菌）をウォータージェットとカッターで除去、ガスバーナーで焼却殺菌、内部はガードラック、形成層にはチオファナイトメタル・ペーストを塗布、空洞部にウレタンフォームを充填、表面はラックバルサンで仕上げた。

特に注目されたのは、やはり土壌であった。深さ50～80cmの土層は建築資材のコンクリートやガレキ類の混じった粘土層。土壌硬度は18～28と固い。排水や通気も悪く、根の発育を阻害、細根や

菌根菌もみられなかった。樹勢を弱めているのはこれら建設残土による盛土であったという。まず土壌改良をはかるべく不良土を除去。イソライト4号を敷き、ポーラスボールで通気と排水をはかる。マサ土、パーク堆肥、ツリーサンネッカ、ウッドエース4号を混入した。松は排水のよい膨軟な砂質土壌を好むといわれている。樹勢回復をはかるためには根系の発達を促す土壌をつくるのが大切である。

長崎街道「曲里の松並木」に残った4本の老松は市民のシンボルである。樹勢回復をはかりながら、松くい虫対策を継続していくことが必要である。老松を守りぬく、それは地域の文化を守ることにつながっていくものと思う。自然を大切にす、樹の生命を見つめることは、樹の「つぶやき」を聴きとる心ではないだろうか。亭々とそびえたつ老松はどんな「つぶやき」をしているのだろうか。そんな思いをかけたくなる老松である。松のある風景はやはりどこも美しい。そしてよく似合う。歴史に彩れた松並木はさまざまなできごとを語りかける。しかしこれらの松並木を守りぬくのも、また難事であることはたしかである。

（石井健雄）



岡野樹木医が外科治療